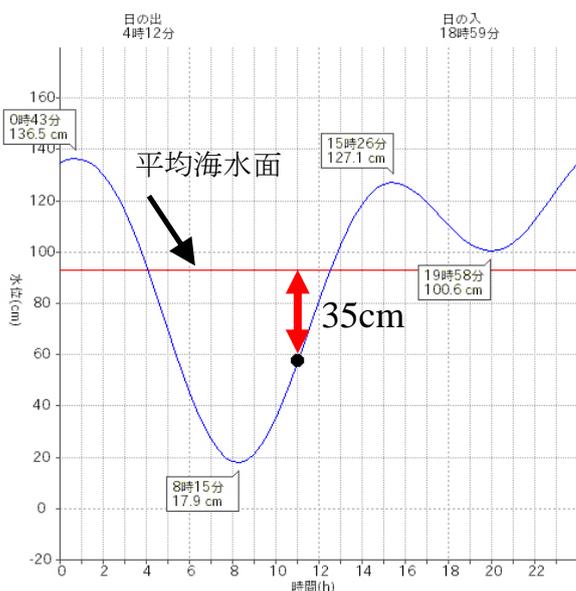


蒲生干潟周辺の地盤沈下量の推定

【概要】東北地方太平洋沖地震の同一地点の写真比較から地盤沈下量を推定した。その結果、蒲生干潟では地震によって約16cm沈下したことが推定された。



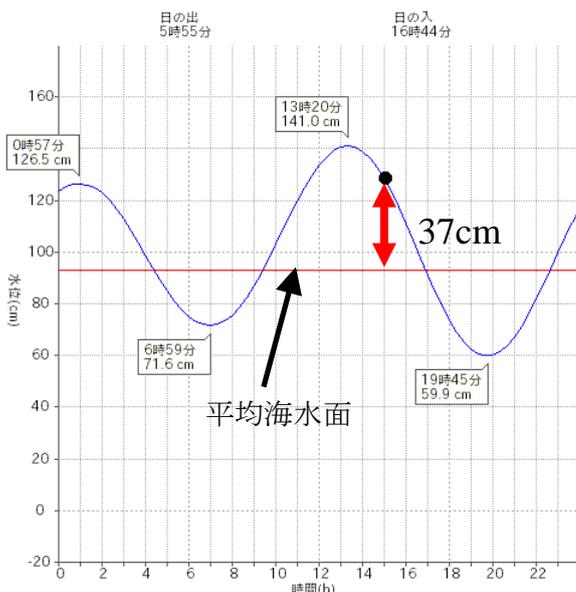
2010年6月10日の潮汐グラフ。●が写真撮影時の海面の高さ。



上写真は震災前の2010年6月10日に中野小学校で行われた環境学習。矢印は下写真と同一の地点を示す。



上写真は2012年10月26日の調査で撮影した同地点。



2012年10月26日の潮汐グラフ。●が写真撮影時の海面の高さ。

東北地方太平洋沖地震でどの程度の地盤沈下起きたのか、蒲生干潟で撮影された写真を資料にして推定した。基準としたのは海上保安庁水路部による平均海面である。写真から確認できる同一の地点が平均海面とどれくらい異なるのかを比較することで震災前後の地盤沈下量を推定した。比較した地点は矢印の位置である。

●震災前

潮汐によって平均海面から35cm低い位置に写真の時間の海面がある。矢印のポイントは写真の海面より約40cm高いので平均海面よりも5cm高い地点となる。

●震災後

潮汐によって平均海面から37cm高い位置に写真の時間の海面がある。矢印のポイントは海面下48cmのところにあるから平均海面よりも11cm低い位置になっている。

●地盤沈下量

同一地点が震災前は平均海面から5cm高く、震災後は11cm低いことになるので、地盤沈下量は約16cmと推定できる。

(引用資料)

グラフの出典：tide736.netより。数値は海上保安庁水路部。

(長島康雄・佐藤賢治)